とかち新聞
主筆 松山明
（行所）北海道足寄郡足寄町 とかち新聞社　電話㊥2551番
（毎週5の日発行）　1カ月800円　1カ年前納の場合8,000円

# 矢野氏が決意を表明

## 本別町長選へ

（本紙の復写、転載を禁じています）

五月の本別町長選へ向つて立起を表明していた本別町農業共済組合長の矢野幸雄氏の後援会結成大会は五日午後一時十五分から、才一会場の津村会館の一、二階大広間に六百七十名、才二会場の本別温泉グランドホテルに五百三十名（主催者側発表）の会員があつまつてひらきました。

### 水元氏が四選不出馬を確約

はじめに後援会設立準備委員長の梨木又造氏から経過報告として

『五十四年の新春はわが町本別の新しい世代の幕あけで、昨年九月の半ば、水元後援会長の石山先生に和あいして現職町長の四選出馬があるかどうかお尋ねした石山先生は卒直な方で自分の意見を述べられ、水元氏の四選出馬はあり得ない、本人もそういつているし、また無競争で出た方は争つて出るべきでない、それにもまして大切なことは本人の健康のことである、新聞の発表によるとハツキリと別名がしるされているが、三年の特義を必要とするし出るべきでもなく出すべきでない、と申された、そのことがあつてから私ども青年四志は次期町長選への検討会をひらき、あらゆる角度から人選し、若さと希望に燃える、いつでもだれとでもどこででも語をまじえて話しあえる矢野幸雄氏を推薦することに決つた、そのことを具体化するために矢野氏の上司であり共済組合長の高木副議長に理解と協力を求めたが、高木さんはそれは待てと、石山先生だけの話しでことをすすめるよりも現職町長の意志をきいてすすめなければ混乱をおこすおそれがある、自分がいつて町長の意志をきいてくるからそれまで動きを待てといわれ、十月初旬に高木さんは、水元町長は私は出ない、矢野が出るというならそれでいいだろうといつたので念を押してきいてきた、矢野を推薦したいといつてきている青年達に返事をするまで待たしてあるのでもう一度卒直におききしたい、町長が四選に出るというなら矢野にやめれといわねばならないし、出ないというなら一生馬命やれといわなければならないし、水元さんは出ないのですかといえばそうだという、それなら矢野候補に一生馬命にやれといつていいんですね、と念を押したらお前達一生馬命やれと（拍手）ご返事を頂いた、私はさつそく青年同志にそのとおり伝えたし、農作業の収穫がおわつてから推薦委員会をひらくことを連絡したが、どうしたことか十一月下旬になつて突然に異議が四選に出ることになり、同派争うことになり非常に残念である、しかし私どもは青年矢野をかついで準備委員を構成し今日の発会をめざして努力してきた』

との報告があつて、議長田に小坂勝雄氏ら七氏を推して会則を決定、役員選出は選考委員をあげて

△顧問　野田永述、前田美次、山下敬一、三木和雄、長谷川義信、青木久雄、和田元八、熊木軍治

△会長　賀陽豊了
△副会長　高木章はか十名
△幹事長　作間勝雄
△副幹事長　荒木又造ら二十名
△青年部長　前田昌男
△会計部長　平賀浪雄
△事務局長　佐藤義吉

などの各氏を決定して、役員を代表して賀陽会長から『七十才に達したが、最後の情熱をふりしぼつて職責を完うしたい』と力強いあいさつがあつて、懇談のことばにうつり、高木章農業共済組合長から『矢野氏は十勝農業学校、帯広畜産大学を出て二十五から二十八年間にわたつて共済組合にあつて金田一の組合として農林大臣表彰をうける中心的役割を果し、このたび辞表を出し第一貫で乗り出した』戸井博之帯大同窓会代表から『矢野君は大学のラグビー選手で明るい性格の男らしい人』小坂義久農協代表から『大黒柱の矢野参事に去られて淋しいが栄光の席にかけて頂きたい』後援会を代表して作間勝雄氏から『一千名は上の調べいらいのあつまりで、快男児ということばどおりの男が矢野さんで東に固つた人がいれば残んでいつてともに泣いてくれる矢野さん、西に笑う人があれば残んでいつてともに歌い踊る矢野さん、年が五十才まさに熟をざかり、町政批判を私はしないがただ残念に思うことはウソのない町政がほしい（拍手）時に臨んでおのれの座を維持せんがために、おのれの権力を保持せんがためにまたそれをとりまく人達が自分の利権を擁護せんがために、そのような後援会であつてはならない、ある後援会ではいつている二月には矢野後援会をぶつつぶす、三月には井田後援会をぶつつぶすといつているが金や権力では矢野後援会は絶対つぶれない』などの発言がありました。

## 豊かなふるとづくりを

つづいて矢野幸雄氏の決意表明にうつり『多くの町長さんとともに私の父もあるときは米を背負つて陳情に、あるときは小豆を背負つて代議士に陳情に参つたことを記憶している、そういうなかから本別町の上水道ができ、各大橋の永久橋への架橋がなされ逐次本別町の体裁がととのつた、しかしこれはモノがないのでモノをのみ追求した町政ではなかつたか、過去十二年間の水元さんの町政は立派な仕事をされているが、モノをのみ追求する姿にかわりがない、一人のすばらしい為政者が立派な仕事をされることは結構だが一方陽のあたらない場所が出てくる、私は替つてその場所に陽をあてたい、私がその仕事をやろうと敢えて立候補を決意した、私の考え方は明るく公平な町づくり、愛情ある心豊かな町づくり、アイデアによる創造的な町づくりが政治理念で、その五つの柱は

一、あなたのための町政を誇し進め豊かなふるさとをつくる
二、酪農、畑作、林業と商工鉱光を振興し町民の生活安定と町経済の充実を図る
三、心豊かな人づくりのための教育と文化の向上に努める
四、町民の福祉を進め明るく住みよい町をつくる
五、町民の声を聞き心の通う行政を進める

町をつくるのとふるさとをつくるのはどう違うか、町というのは橋をつくつたり学校を建てたり道路を直したり、いい建物がならんだり生活環境が整備されるのが町づくりだかふるさとをつくるというのはそれに愛情のある町民の意志がかもし出されてふるさとが生れてくる、私は一番目にふるさとづくりをしたい心の通う行政をやりたいこれが私の最初にして最終の理念である、ここにいろいろ書いてあるが、中味についてみなさんと論をつき合せて話し合う機会もあり、簡略に省略するが、この最後の新しい町づくりに書いてある北海道横断自動車道の第工区道は本別町の二十年後、五十年後、百年後を考えてみたときどうしても必要で、原料の乗換、運輸対策からも畑作、酪農も変えてしまうかもしれない、札幌まで二時間二十分となるとここでとれる資源がその日の朝に札幌市場で売られるかもしれない、鋼路まで二十五分か三十分後に鋼路市場で売られるかもしれない、文化もそうで町の経済も一変する、本別所大橋を浦幌坂からおりたところから弥生町へ向つてかりに大橋ができると本別の町は弓なりで狭いので川向いが都市化され駐車場をもつた大きな施設ができる、まだいろいろあるが、特に勤労者の郷を設けたが率先労働者のためにたとえば冬期間の除雪をダンプやブルは山の方で働いてもらい、街のなかの除雪は季節労働者によつていくらかでも収入を得てもらうアイデアをお持ちの方もいる、観光をとつてもこの表の山の国有林を弘い下げをうけるのか検討を要するが、この山を夏川公園にかけて一大観光地帯にとのアイデアも考えられており十年後、十五年後の本別町のためにやらねばならない、これらの問題を町民とともに話し合いながらつくつて参りたい、ある月はどこかの炭鉱の茶の間でご婦人方とお話しをする、ある月はどこかで日部さんたちと青空で町政の在り方を話し合う、そういう機会をつくりながら新しい本別町をみなさんとともに考えていきたい』と述べました。

このあと会場の婦人二十数名から矢野決意に花束や一輪花の贈呈があり、宣言決議があつて浜田文雄氏の音頭で後援会の万才を三唱して、午後三時十分に閉会しました。

## ニュースを斬る

◆…警察予備隊という名前で発足したのは日本に軍隊をおくことができない平和憲法があるための苦肉の策であつたわけで、アメリカの朝鮮戦争に備えての戦略でもあつたわけで、それがいつのまにか保安隊となり、そしてこれが自衛隊となつているこんにも、これが軍隊ではないと言い張るのはムリなはなしで、この既成事実を認めようとしている公明党などのいわゆる中道勢力は、中道ではなく才二保守党への道を歩みつつあります。

◆…資本主義国才二の経済大国といわれる成長ぶりは、なんといつても朝鮮戦争とベイナム戦争のおかげで、経済大国は必然的に軍事大国に向わざるを得ない筋で、教育予算や福祉予算はそつちのけにして、一億六十一億円もする戦斗機を購入しようということでもわかるように、歯止めのない軍事予算をチツプするのは中道勢力ではなく革新勢力でなければなりません

### 中道勢力とは！

◆…釧路市長選がそうであつたように、自民党候補が自民かくしで登場すればこれに刑びつくのが中道勢力で、その口実は共産党とはともに天を戴かないという排除の論理で、既成前の警察国家、軍国主義政治は反共を旗印にして日本を破滅に導いたように、これはいつかきた道で、美濃党が加わる選挙なら自民党を勝たした方がよいというのが中道勢力のハラであるとすれば、偽装革新ということになります。

縁起　福だるま　付
お卒業／お進学／お祝いセール実施中
（四月二十日まで）
◎時計お買上げの10%を現金でお祝い金としてご進呈
◎さらに10%相当の店内商品をお祝い品としてご進呈
◎水谷豊・相木久美子のポスタープレゼント
ギフトボンドスタンプ付
農業協同組合・町村共済組合指定店
ミヤケ時計店
足寄町三笠通り　T ㊥二六〇七

### 社告

ご承知のように松山千春がフォーク歌手として専念せざるを得ない状態となりましたので、その穴埋に千春の姉、歌恵子の夫である

**菊地武光**

が当社の記者として勤務して、社長代理としてもお何いすることになりましたので、なにかとよろしくお願い申しあげます。

とかち新聞社
社長　松山　明

カメラ　八ミリ　写真材料
上野カメラ堂
上野復興
足寄町駅通り　T 五一二五一二

墨きゆう車　葬儀仏具一式　花輪　生花
㊥自動車　新津はなや
足寄町西三区　T 五一二六二六

新畳　表替　中古畳　フスマ張替
敷物一式
クロス施工
小林畳店
小林幸三郎
足寄町大通り山口整骨院前　T五一二四二八

大自然のなかの人工美
―いで湯のふるさと―
観光と保養の
芽登温泉
足寄町芽登　T 二八五五

赤外線焼付塗装ブース導入！
エナメル塗付塗装　オールUSA塗料使用
札幌陸運局認証　整備　板金　塗装
ムトウ自動車工業
足寄町　T五一　二五七八　三七一九

ピアノ科、エレクトーン科、保育師養成科、声学科
川岸音学院　院長　川岸新一
講師　斉藤九三子　井出真喜子
足寄教室　足寄町　T　二三七九
足寄教室　丸山デンキ内　T　㊥二一二二
本別教室　井出建設内　T　㊥二一一五
上士幌教室　家庭商店内　T　㊥三〇六五
足寄自宅　北五区　T　㊥二八㊥九

足寄新名所！
楽しい銘石湯でおつぐろぎ下さい
小宴会、大宴会、各祝賀会に
グリーンパーク
ドライブイン・大駐車場完備！
足寄町虻見が丘公園　T 五一三一七五